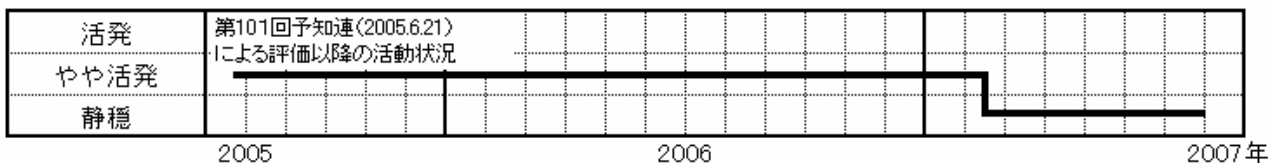


十勝岳

○ 火山活動評価：静穏な状況

火山活動は静穏に経過しています。19 日に振幅の小さな火山性微動が観測されました。山頂部の GPS 観測で観測されたわずかな膨張の変動は、一部の基線で鈍化が認められました。



○ 概況

- ・ 噴煙および熱活動（図 2～図 5）

62-2 火口の噴煙の高さは概ね 100m 以下で推移し、噴煙活動は静穏な状況が続いています。

2日に北海道開発局の協力を得て実施した上空からの観測では、62-2火口や周辺の火口の状況に特段の変化はありませんでした。赤外熱映像装置¹⁾による観測でも、各火口やその周辺の温度分布に特段の変化は見られませんでした。

18日に実施した現地調査では、赤外熱映像装置¹⁾により測定した62-2火口の温度は約170℃で、先月の現地調査時(約170℃)と比べて変化は認められませんでした。

- 1) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。

・ 地震活動（図 2、図 6、表 1）

62-2 火口付近の地震計（H 点）で、19 日 07 時 30 分頃から約 1 分間、振幅の小さな火山性微動が観測されました。微動の発生源は 62-2 火口周辺と推定されます。空振計には火口からの噴出を示すような振動は観測されませんでした。十勝岳で火山性微動が観測されたのは、2006 年 2 月 14 日以来です。

火山性地震は、火山性微動の前後での増加もみられず、1日あたり0～3回と少ない状態で推移し、地震活動は低調な状態で経過しました。

- ・ 地殻変動 (図 7~図 10)

18～22 日にかけて山頂部の 62-2 火口周辺で GPS 繰り返し観測を実施しました。2007 年 6 月に 62-2 火口を挟む複数の基線で認められたわずかな膨張は、一部の基線で鈍化が認められました。山腹での GPS 連続観測では火山活動によると考えられる変動は観測されませんでした。

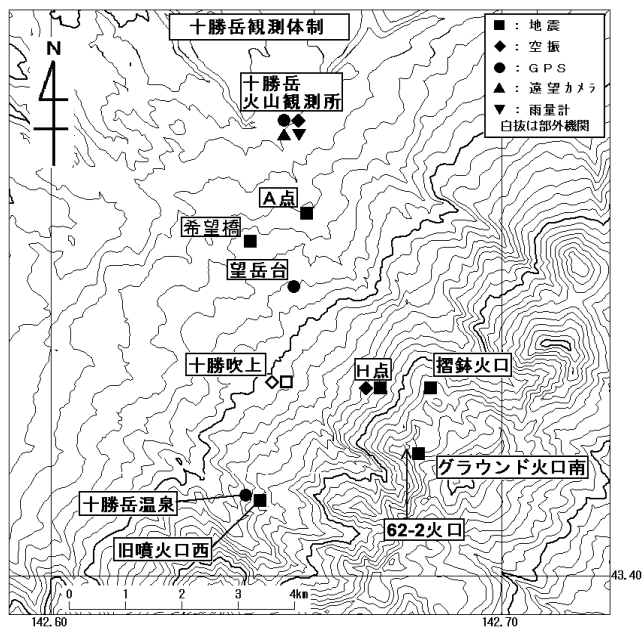


図1 十勝岳 火山観測点配置図

※ 資料は気象庁のほか、北海道、北海道立地質研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 17 総使、第 503 号）。

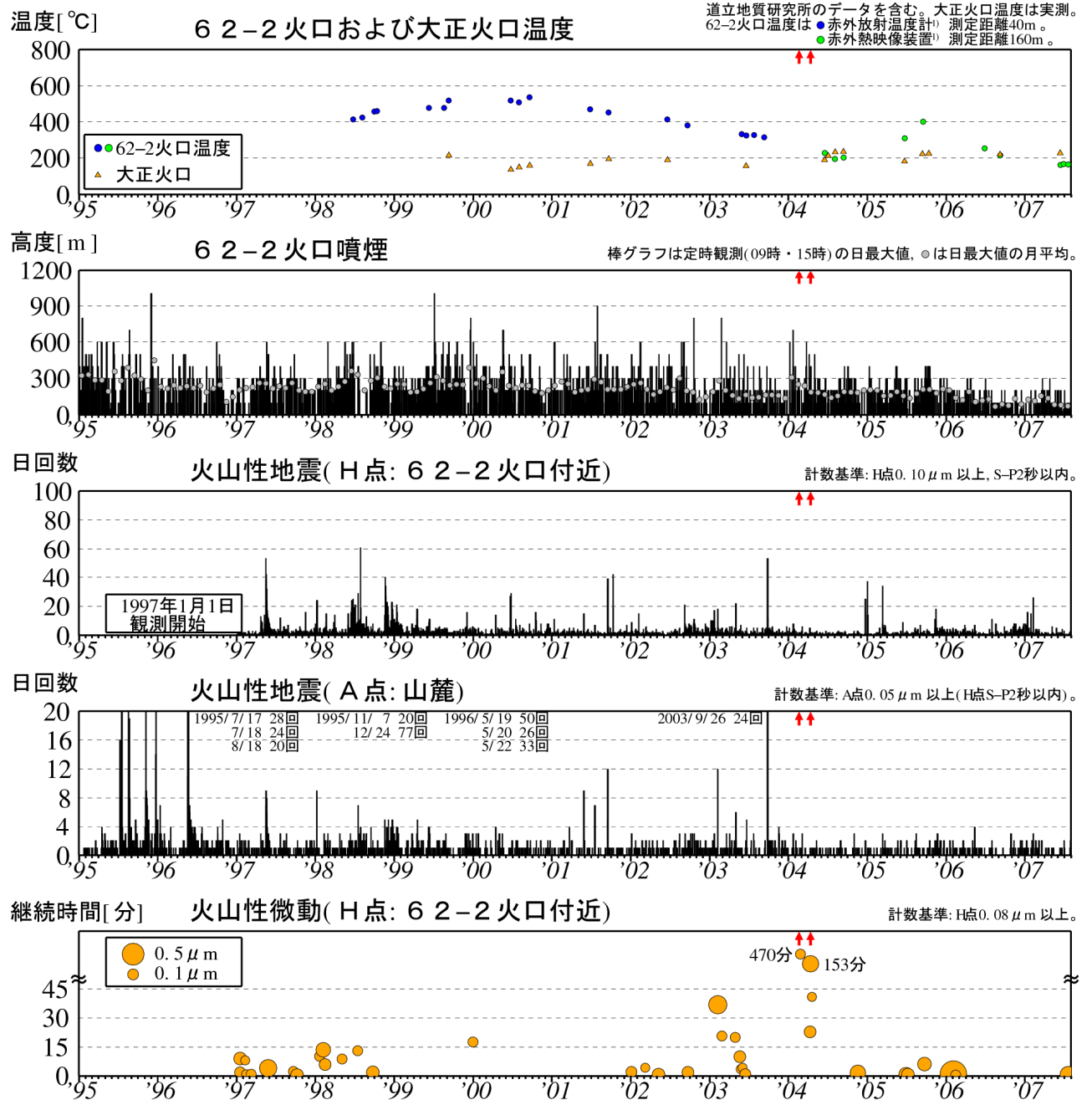


図 2※ 十勝岳 最近の火山活動経過図（1995 年 1 月～2007 年 7 月） ↑印はごく小規模な噴火
*地震観測点 A 点は近傍での工事のため 2007 年 5 月 24 日より代替点として希望橋のデータを使用しています。
・62-2 火口の噴煙活動はやや活発な状況が続いていましたが、2006 年 1 月以降低下傾向が見られます。
・地震活動は 1999 年後半から比較的静穏に経過しています。
・2007 年 7 月 19 日に、振幅の小さな火山性微動が発生しました。

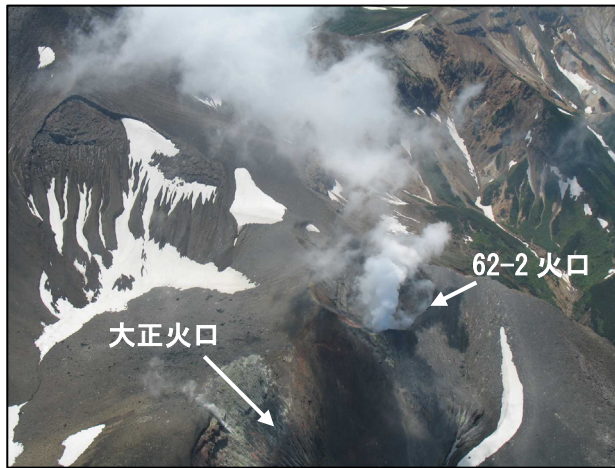


図 3 十勝岳 62-2 火口周辺の状況
(7 月 2 日 図 4 矢印方向から撮影)

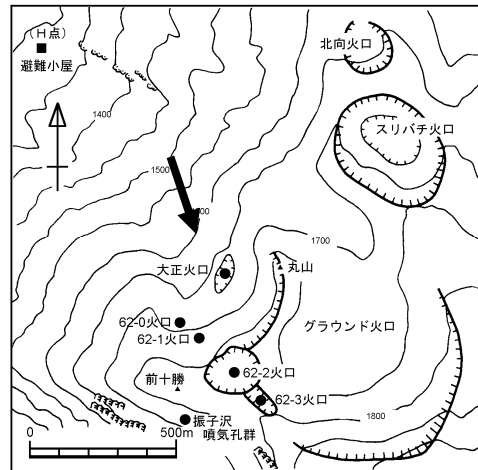


図 4 十勝岳 火口周辺図

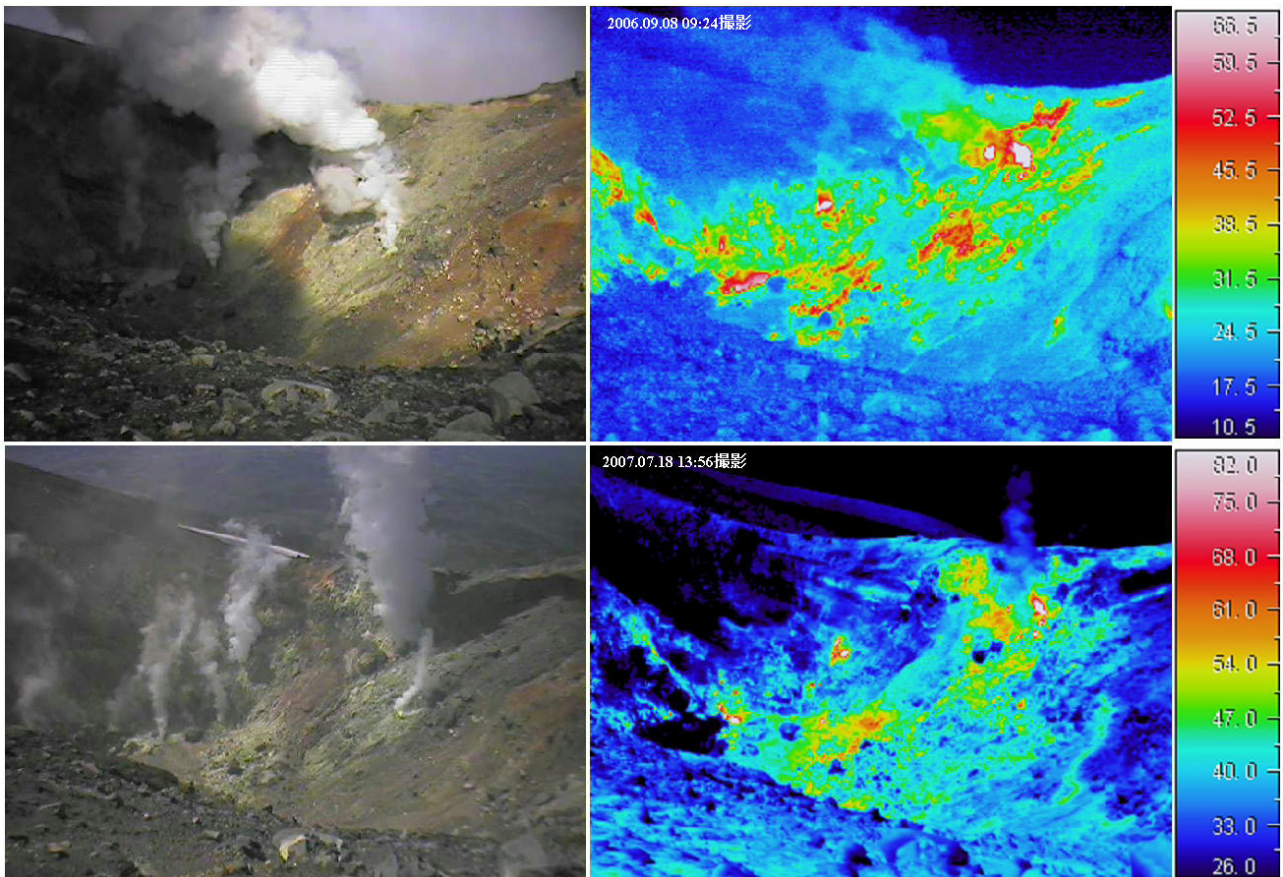


図 5 十勝岳 赤外熱映像装置¹⁾による 62-2 火口周辺の表面温度分布
(上：2006 年 9 月 8 日 下：2007 年 7 月 18 日 南東側から撮影)

- ・北側内壁の噴気孔を主体として噴気が勢いよく噴出していました。赤外熱映像装置¹⁾により測定した 62-2 火口の温度は約 170℃（測定距離：約 150m）で、前回（2007 年 6 月：約 170℃）と変わらず、2006 年 9 月（約 220℃）と比べて温度の低下が認められました。

表 1 十勝岳 地震・微動の月回数（H 点：山頂付近〔図 6 TOKH〕 A 点：山麓点〔図 6 TOKA〕）

2006 年～2007 年	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月
H 点地震回数	22	19	32	83	76	90	54	23	15	23	19	10
A 点地震回数*	2	2	4	6	8	9	12	5	4	5	6	4
H 点微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

*地震観測点 A 点は近傍での工事のため 2007 年 5 月 24 日より代替点として希望橋〔図 6 KBBS〕のデータを使用しています。

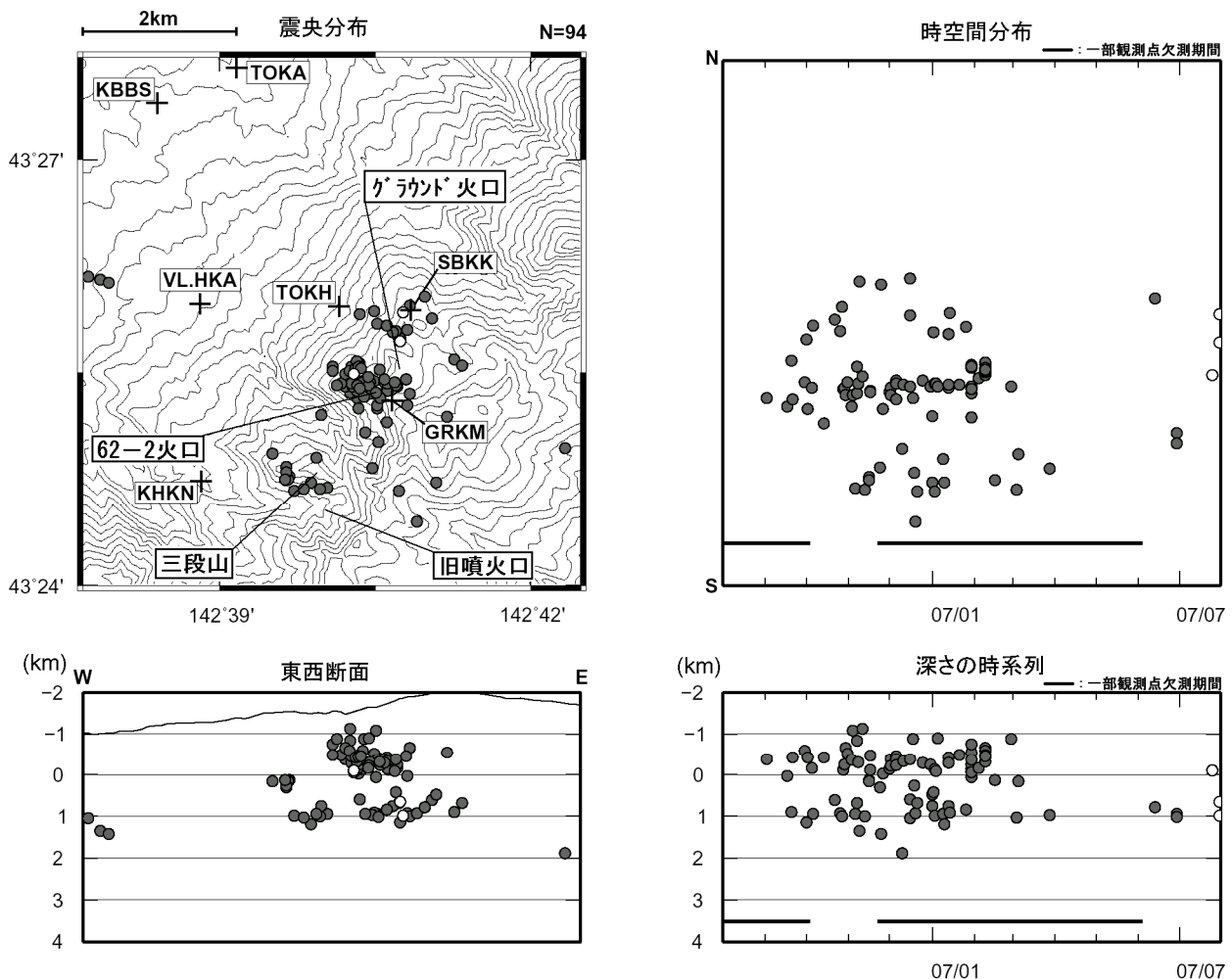


図 6※ 十勝岳の震源分布図（2006 年 8 月 1 日～2007 年 7 月 31 日、+は地震観測点）

表示期間中、2006 年 8 月 1 日～2006 年 10 月 4 日および 2006 年 11 月 22 日～2007 年 6 月 4 日の期間は、一部観測点欠測のため震源決定数が減少し、精度が低下しています。

○印は今期間（2007 年 7 月）の震源

●印は前期間までの 11 ヶ月間（2006 年 8 月～2007 年 6 月）の震源

- ・前期間までの震源はグラウンド火口周辺の浅い所（山頂から深さ 1～3km 付近）に集中しているほか、三段山～旧噴火口周辺の浅い所にも分布しています。今期間に求まった震源も、おおむねこの領域内に分布しています。

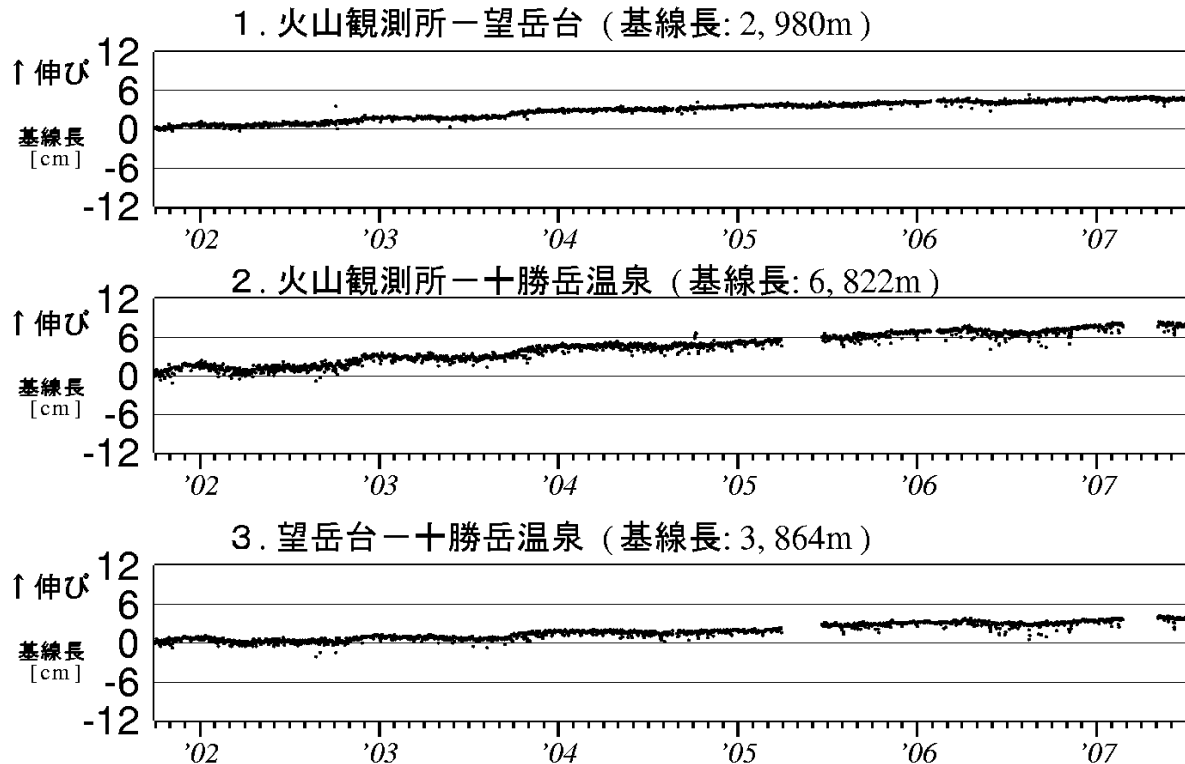


図 7 十勝岳 GPS 連続観測による基線長変化（2001 年 10 月～2007 年 7 月）

グラフの空白部分は欠測

図 7 の 1～3 は、図 8 の GPS 基線①～③に対応しています。

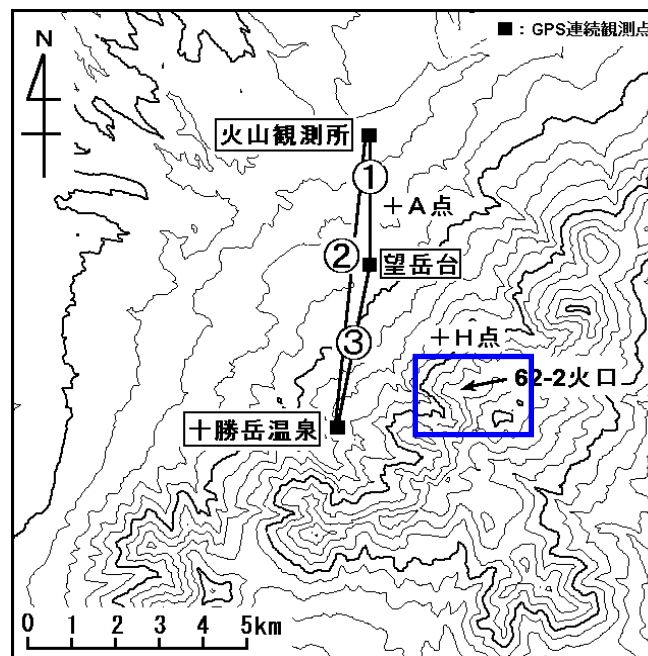


図 8 十勝岳 GPS 観測点配置図（□は図 10 の範囲）

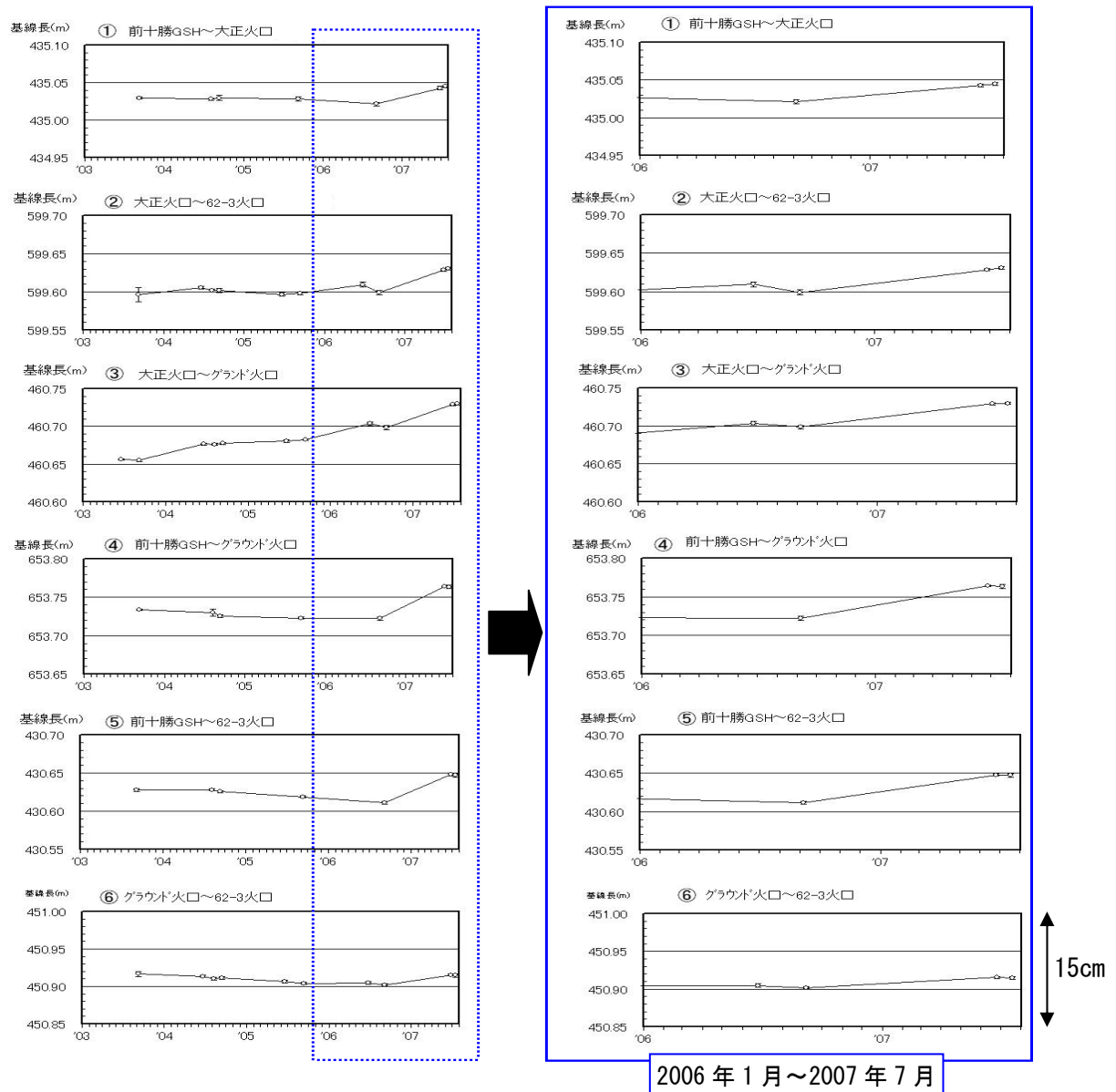


図 9※ 十勝岳 GPS 繰り返し観測による基線長変化

左列は 2003 年 6 月～2007 年 7 月までの基線長変化図、右列は 2006 年 1 月～2007 年 7 月の期間を抜粋した図です。図 9 の①～⑥は、図 10 の GPS 基線①～⑥に対応しています。

6 月に実施した GPS 繰り返し観測で、62-2 火口を挟む複数の基線でわずかな膨張が観測されました。7 月 18 日～22 日にかけて再度 GPS 繰り返し観測を実施した結果、膨張は一部の基線で鈍化が認められました。

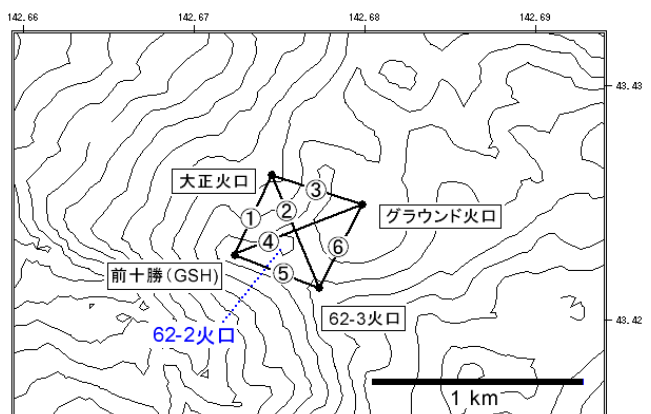


図 10※ 十勝岳 山頂 GPS 繰り返し観測点配置図